



滋賀県政150周年記念 じんけん啓発パネル展

1

差別をなくすために立ち上がった場所「厳浄寺」

2

知的障害児福祉の父が築いた「近江学園」

3

私財を投じて女学校を創立した「塚本さと」

4

戦争の悲惨さを今に伝える「冲原神社」と「^{えんたいごう}掩体壕跡」

5

語りつぐ 平和への願い「滋賀県平和祈念館」

6

滋賀県初の視覚障害児のための学校「彦根訓盲院」

7

日朝児童の交流を伝える「『平和の誓』像」

8

滋賀県で最初の小学校「開知学校」

9

病に苦しむ人々のために尽力した「草場左京」

10

司法権の独立を守った「大津事件」

11

人権尊重の取り組みを進める「(公財) 滋賀県人権センター」

12

同和問題の解決に向けた「同和問題啓発強調月間」

差別をなくすために立ち上がった場所「厳浄寺」

滋賀県水平社創立大会、大正13年（1924年）



厳浄寺



厳浄寺での水平社創立大会の様子が描かれているイラスト
(小久保信藏 筆)



■ 厳浄寺

所在地：甲賀市甲南町宝木92

【アクセス】

- JR 貴生川駅または甲南駅から
約1km
- 新名神甲南 IC から車で
約10分

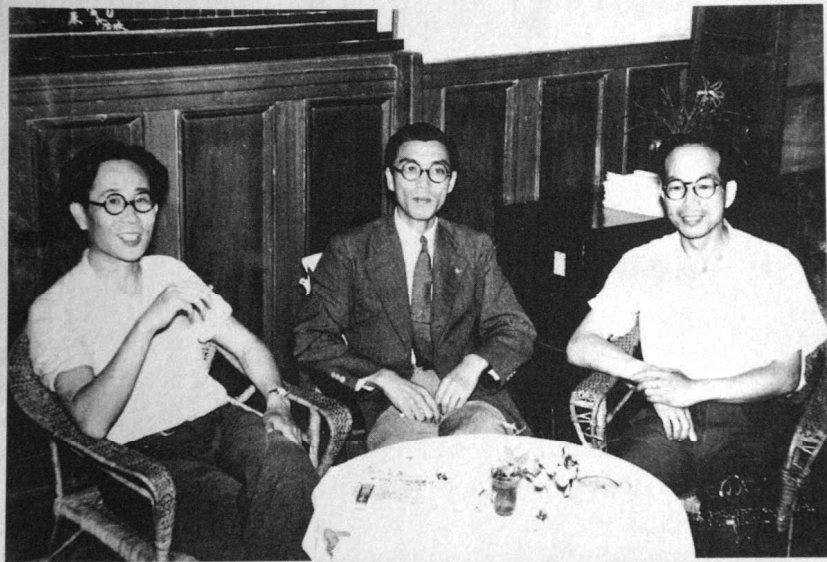
日本固有の身分制度による部落差別。明治4年（1871年）の解放令により身分制度は廃止されたものの、厳しい差別は続いていました。

そこで100年前の大正11年（1922年）に差別に苦しんでいた人々が自らの力と団結による解放をめざして「全国水平社」を設立。日本最初の人権宣言ともいわれる「水平社宣言」が採択されました。

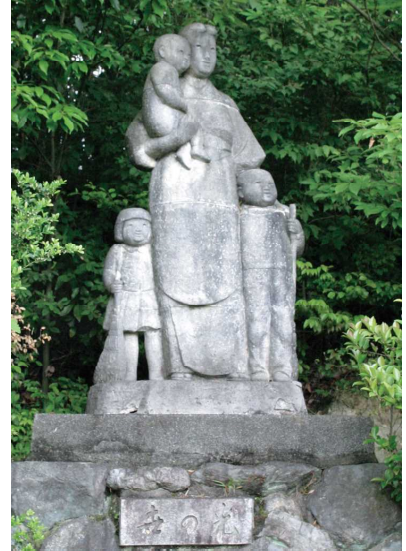
その2年後の大正13年（1924年）4月28日、今の甲賀市甲南町にある厳浄寺で、滋賀水平社の創立大会が開催されました。

知的障害児福祉の父が築いた「近江学園」

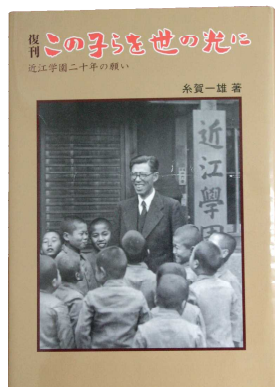
「近江学園」創設、昭和21年（1946年）



田村一二、糸賀一雄、池田太郎（近江学園蔵）



近江学園の正面に立つ母子像は糸賀一雄によって「世の光」という名前が付けられている。



復刊
「この子らを世の光に」
(1965年 柏樹社刊)

近江学園は終戦間もない昭和21年（1946年）に、戦争で親を失った子どもや、知的障害のある子どもたちのために、糸賀一雄、池田太郎、田村一二の三人によって創設された児童福祉施設です。

園長の糸賀一雄は福祉にかける思いを「この子らを世の光に」という言葉で表し、「福祉は人なり」という信念から、福祉を支える人材を数多く育て上げるなど、国の制度作りにも力を尽くしたことから「知的障害児福祉の父」として尊敬されています。



■ 近江学園

所在地：湖南省東寺4丁目1-1

【アクセス】

● JR 草津線石部駅から車で約10分

● 名神栗東ICから車で約15分

私財を投じて女学校を創立した「塚本さと」

「淡海女子実務学校」創立、大正9年（1920年）



塚本さと（近江商人博物館蔵）



当時の裁縫時間の様子（近江商人博物館蔵）

滋賀県私立淡海高等女子学校『創立二十記念誌』（昭和13年刊）より



塚本さとは天保14年（1843年）に、今の東近江市五個荘川並町で近江商人・塚本定右衛門の五女として生まれました。

商家の女性として一家を支える中で、当時の女性のおかれている立場を見て女子教育の大切さを痛感し、74歳で夫を亡くした後、学校づくりに向けて活動を始め、77歳の時、私財を投じて淡海女子実務学校を創立して校長となりました。



■淡海女子実務学校

（現・淡海書道文化専門学校）

所在地：東近江市五個荘竜田町 266

【アクセス】

●JR 能登川駅から車で約15分

●名神竜王 IC、または彦根 IC から車で約30分

戦争の悲惨さを今に伝える 「冲原神社」と「掩体壕跡」 えんたいごう

多くの飛行士が飛び立った飛行場の跡



東近江市柴原南長にあるコンクリートで造られた掩体壕跡。
この他にもう1か所残っている。



冲原神社



- 掩体壕跡 所在地：東近江市柴原南町
- 冲原神社 所在地：東近江市東冲野
3丁目11-1

【冲原神社へのアクセス】

- 近江鉄道八日市駅から車で約5分
- 名神八日市ICから車で約5分



冲原神社に移築された飛行第三連隊正門

大正3年（1914年）、今の八日市南高校付近に日本初の民間飛行場が開設されました。

その後、陸軍八日市飛行場となりましたが、当時の飛行機は故障が多く、飛行士の無事と飛行の安全を守る冲原神社が敷地内に建立されました。

戦争末期には、八日市飛行場も米軍の爆撃を受けるようになり、航空機を敵の爆撃から守る格納庫「掩体壕」が築かれました。

当時の飛行場正門は冲原神社に移築されています。

語りつぐ 平和への願い 「滋賀県平和祈念館」

滋賀県平和祈念館、平成24年（2012年）開館



■滋賀県平和祈念館

所在地：東近江市下中野町 431 番地

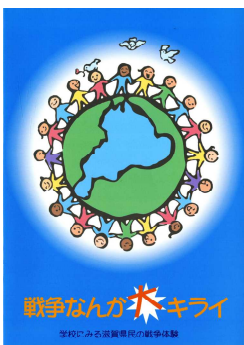
電話：0749-46-0300

【アクセス】

●名神八日市 IC から車で約10分

昭和 59 年（1984 年）ごろから、平和関連施設建設の意見が県議会に出されるなど機運が高まり、平成 16 年（2004 年）に建設予定地が決定され、平成 24 年（2012 年）に開館した「滋賀県平和祈念館」。県民の戦争体験を語り継ぎ、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、平和を願う心を育むための拠点となる施設です。

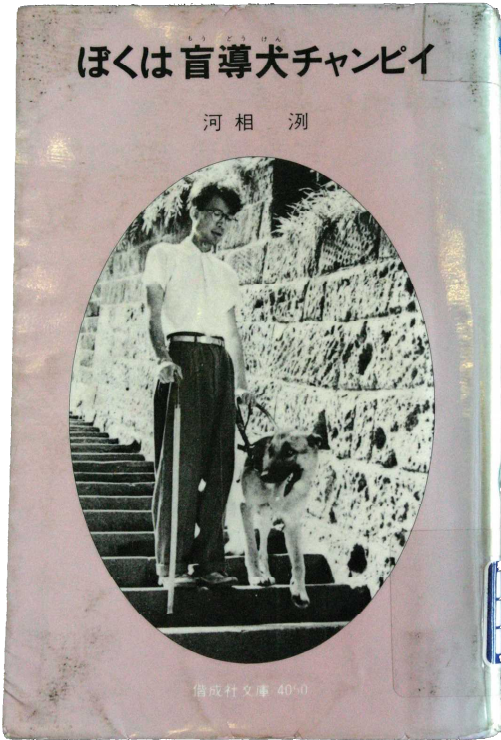
収集された資料や当時の体験談を通して、戦争体験者の思いや願いを感じられる施設です。



子ども向け県民戦争体験記録集
「戦争なんか大キライ」

滋賀県初の視覚障害児のための学校 「彦根訓盲院」

視覚障害を持つ子どもたちのための学校、
明治41年（1908年）誕生



『ぼくは盲導犬チャンピイ』河相洸著／信成社文庫



創立1周年の彦根訓盲院の子どもたち
(当時の写真は県立盲学校の玄関に展示されている)

「自分と同じ視覚障害を持つ子どもたちのための学校をつくりたい」という山本清一郎の熱意に心打たれた人々がお金を出し合い、明治41年（1908年）に「彦根訓盲院」が誕生しました。

大正13年（1924年）に新校舎が完成し、「彦根盲学校」と改称され、昭和3年（1928年）に県立盲学校となりました。

昭和12年（1937年）には、ヘレン・ケラー氏が来校されました。

また、昭和32年（1957年）に“盲導犬の父”こと塩屋賢一の訓練の下、国産盲導犬第一号の「チャンピイ」が彦根で誕生しました。



■彦根訓盲院跡

所在地：彦根市京町二丁目 9-47

【アクセス】

●JR彦根駅から約1km

●名神彦根ICから車で約5分

日朝児童の交流を伝える『平和の誓』像

日本と朝鮮の友好・平和を願って、
昭和36年（1961年）制作



- 彦根市立城東小学校
所在地：彦根市京町二丁目 2-19
【アクセス】
- JR彦根駅から約900m
- 名神彦根 IC から車で約5分



城東小学校正面玄関の廊下にケース保管されている「平和の誓」像（作者は滋賀大学の伊室重孝教授）



旧米原小学校には「平和の光」と題した銅像が残されています。ここにも「朝鮮学級」が設置され、日本人と朝鮮人の子どもが勉学を共にしていました。

- 旧米原小学校
所在地：米原町米原 675

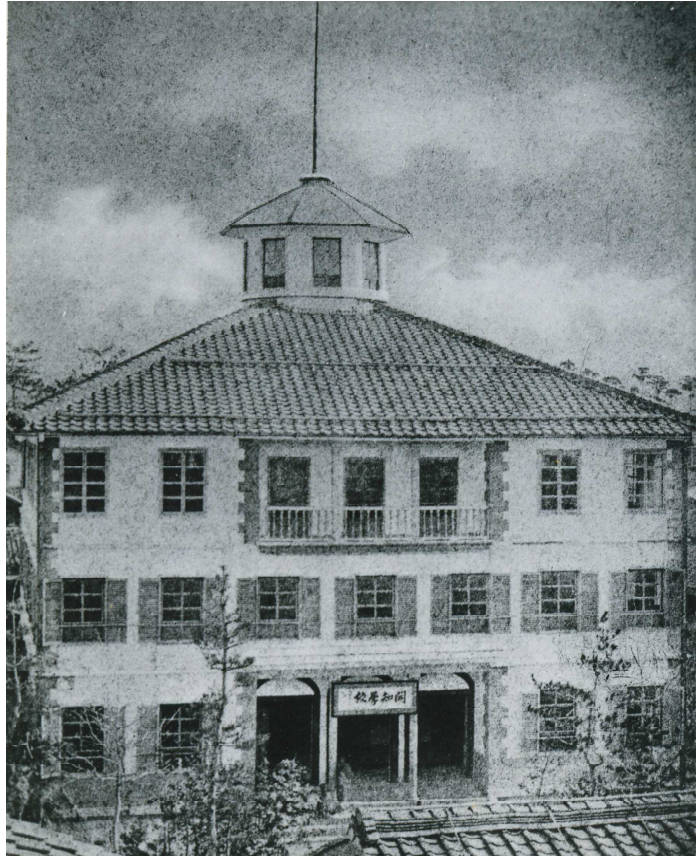
彦根市立城東小学校に「平和の誓」と名付けられた像があります。この像は、昭和36年（1961年）に制作されたものです。

昭和24年（1949年）から昭和44年（1969年）まで「朝鮮学級」という在日朝鮮人児童のための学級が、校舎内に設置されていました。

昭和34年（1959年）から「帰国事業」が始まり、その際に朝鮮の人たちが帰国を記念し、日本と朝鮮の友好・平和を願ってこの像を寄贈しました。

滋賀県で最初の小学校「開知学校」

滋賀県最初の小学校「滋賀県第一小学校」、 明治4年（1871年）誕生



当時の開知学校と設計図（長浜市長浜城歴史博物館蔵）



1階がビアパブとなっている現在の開知学校
（国登録有形文化財）



- 開知学校
- 所在地：長浜市元浜町（駅前通り）
- 【アクセス】
- JR 長浜駅から約300m
- 北陸道長浜 IC から車で約10分

滋賀県最初の小学校となる「滋賀県第一小学校」が長浜に誕生したのは、学制が公布される1年前の明治4年（1871年）のことでした。そして明治7年（1874年）には、全額町民の寄付により、文明開化を象徴するような洋風3階建て、八角形の櫓付きのモダンな校舎の「開知学校」が開校しました。

虎姫町で名医と語り継がれている「草場左京」



「虎姫のむかし話」の表紙

昭和54年（1979年）に虎姫町公民館が発行した冊子「虎姫のむかし話」の中に、草場左京の話が収められています。



（イラストは「虎姫のむかし話」より転載）



■円融寺

所在地：長浜市桜町140

【アクセス】

●JR 虎姫駅から約900m

●北陸道長浜 IC から車で約15分



円融寺にある草場左京の偉業を讃える顕彰碑

明治8年（1875年）、虎姫で医院を開業していた草場佐仲の長男として生まれた左京は、大阪高等医学校（現：大阪大学医学部）を卒業し、皮膚科の医師となりました。

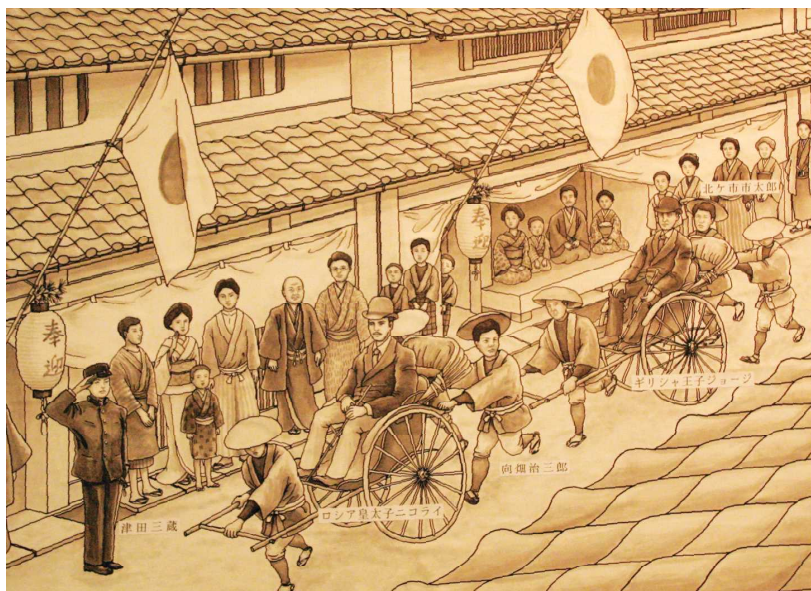
また、左京は貧しい人々を支援する団体を興して、病に苦しむ人々のために無料診察を行って来ました。

後に左京の屋敷跡に建てられた円融寺には、左京の偉業をたたえる石碑が作られ、顕彰されています。

国際社会を揺るがした大事件



事件当時の永井家の店先の写真「永井久雄家蔵」と実際に負傷したニコライが腰を降ろした店先の床几（しょうぎ）に敷かれた座布団。今でも血痕が付着しているのが判別できる。（滋賀県立琵琶湖文化館所蔵）



大津事件直前の風景イラスト（大津市歴史博物館蔵）

明治24年（1891年）5月11日、大津のまちで日本中を揺るがす大事件が発生しました。

来日中だった、ロシアの皇太子ニコライが大津遊覧から帰る途中、警備にあたっていた巡查、津田三蔵に突然切り付けられたのです。

当時まだ弱小国だった日本の政府は恐れをなし、津田巡查を死刑にしようと裁判所に圧力をかけましたが、時の大審院長児島惟謙は法治主義の立場からこれをはねつけ、法律に定められた刑の範囲内で判決を下しました。

司法権の独立を守ったとして、「大津事件」はその名を残しています。



■露国皇太子避難地碑

所在地：大津市京町2-2

【アクセス】

●JR 大津駅から約300m

●名神大津 IC から車で約5分

人権尊重の取り組みを進める 「公益財団法人滋賀県人権センター」

財団法人滋賀県解放県民センター、 昭和50年（1975年）設立



「人権週間協賛・人権尊重と部落解放をめざす
県民のつどい」の様子



建設当時の写真（公益財団法人滋賀県人権センター「40年のあゆみ」より）

部落解放運動の高まりと同和行政の取組等の前進により、昭和50年（1975年）に部落解放の拠点である「解放会館」が完成し、同年にこれまでの（社）滋賀県同和事業促進協議会を改組し、（財）滋賀県解放県民センターが設立されました。

同和問題の早期解決のための総合センターとして、県民啓発と同和対策事業の推進に対する指導助言等を実施する中、平成15年（2003年）にあらゆる人権問題の解決に向けて取り組むため、「（財）滋賀県人権センター」と改称し、平成23年（2011年）に公益財団法人に移行しました。



■滋賀県人権センター

所在地：大津市におの浜四丁目1-14

電話：077-522-8243

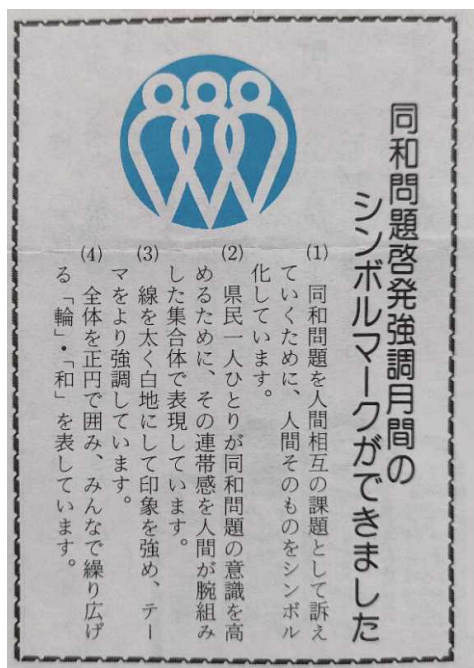
【アクセス】

●JR 膳所駅から約1km

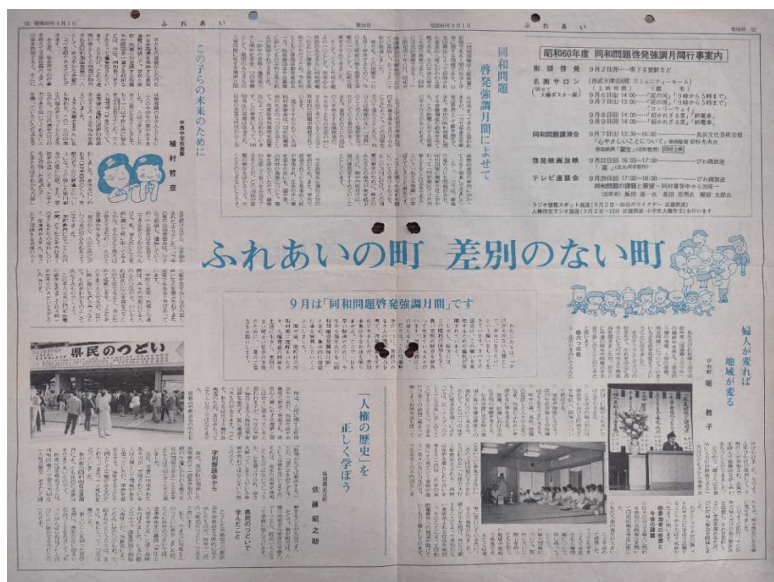
●名神大津ICから車で約10分

同和問題の解決に向けた 「同和問題啓発強調月間」

「同和問題啓発強調月間」、 昭和60年（1985年）スタート



シンボルマーク決定を知らせる
県広報誌「ふれあい」第62号
(昭和61年（1986年）9月1日)



スタートを知らせる県広報誌「ふれあい」第58号
(昭和60年（1985年）9月1日、県同和对策課発行)

昭和40年（1965年）8月、「同和問題の早急な解決こそ国の責務であり、同時に国民的課題である」との同和对策審議会の答申から20年が経過し、様々な取組が展開されてきました。

ただ、県民の理解や関心は高まりましたが、差別事象の発生や同和对策事業への「ねたみ意識」も芽生えていることもあり、昭和60年（1985年）にこの問題の解決のために、県民の皆さんの協力が実を結ぶように「同和問題啓発強調月間」をスタートし、一層の啓発を実施することとしました。



令和3年度（2021年度）の駅頭啓発の様子